



みなさん、お元気ですか。春ですね。気分を一新して、フレッシュな気分でディベートに望みましょう。さて、もうご存じかと思いますが、先の「第4回JDA日本語ディベート大会」、B部門に川俣洋史さん・渡辺起里さんコンビ、A部門に加藤宏さんが職場の方と組んで、出場されました。なんと、加藤さんチームは優勝という快挙を成し遂げました。B部門は惜しくも決勝戦には残れませんでしたでしたが、渡辺起里さんは、ディベートを始めて半年という短期間にもかかわらず、大会に挑戦し、堂々たるディベートをなさいました。いずれにしても、JBDFの水準の高さを外部に知らしめる大会となりましたね。

加藤宏さん、渡辺起里さんに感想をうかがいました。



## 第4回JDA日本語ディベート大会

日時：3月21日(土) 場所：神田外語大学4号館

論題 A部門：「日本政府は、刑事裁判において証拠として認められる範囲を拡大すべきである」

B部門：「日本は積極的安楽死を法的に認めるべきである」



## JDA大会に参加して

### —有るのか、無いのかディベート必勝法—

JICAディベート研究会代表/JBDF会員

加藤 宏

【幕張は、晴れのち曇り】

今回のJDA大会では、「JICAディベート研究会」は、A部門で優勝、B部門で準優勝という、望外の結果を残すことができました。しかし私としては、予選、決勝ともに、実に無様なディベートをしてしまったという思いが強く、個人的には悔いの残る大会でした。

と、言うわけで、私としては、今回の大会は早く忘れてしまいたいと思っているのですが、我が愛するJBDF井本さんの温かくかつ巧妙な原稿依頼にそそのかされて、今回の経験から何を学んだか、という点を少しばかり、まとめてみたいと思います。経験に学ばないのは本当の阿呆である、などと思直しつつ..

【うまい奴は、ここが違う!!】

さて、今回の私のパートナーで、大会のベスト・ディベーターの榮譽に輝いた武井という人物は、かつて学生時代に強豪ディベーターとして鳴らした男であります。おまけに、JICAに入ってから、米国ジョージタウン大学のロースクールに2年間留学し、その間に、ちゃっかり、ニューヨーク州(だったか?)の弁護士資格をとってきた、という、とんでもない奴です。「彼と組めば誰でも優勝できたはず」、というのが今回の大会での偽らざる感想です。

今回、その彼と組んで、凄いな、と思った点は、特に次の点です。

●議論を作り上げる能力がある。

優れたディベーターに求められる能力にはいろいろありますが、最も基本的な能力は、「強い議論(ケース)を構想することができる」ということでしょう。いくら弁舌がうまくても、弱い議論しか作れないのであればどうしようもないのですから。武井君は、その点において、抜きん出た能力をもっているようです。

これを具体的に言うと、つまり、ああでもないこうでもない、資料の海に浸かっている時間が短いのです。彼は、「週末、ちょっと調べておきます」といって、金曜日に私と分かれる。すると次の月曜日には、彼の側から、「これが肯定側ケースの第1案、これが第2案」という感じで、A4で1-2枚の紙が、何種類か、ササッと出てくるのです。

このように、論理の筋道を、とりあえずでも、手際よく作れると、いろいろな利点があると思います。まず、資料

を集める目的意識がはっきりして、時間の無駄を省ける。また、いざとなれば、既に作ってあるどれかにエイヤと決めて、とにかく戦える、という安心感もある(したがって試合直前のバタバタがない。)。それに、否定側に立った場合に肯定側の議論を予想しやすい、というプラスもあります。実際、今回、このおかげで、私もずいぶんラクをさせてもらいました。

●議論の本質を見極める能力がある。

次に、上の点とも通じるかも知れませんが、「論題の本質を大きくとらえるのがうまい」、というのが、もう一つ彼に敬服した点です。今回の大会での論題は、「日本政府は、刑事訴訟において証拠として認められる範囲を拡大すべし」というものでしたが、私が論題についての基礎的な知識を「しこしこ」と仕入れている段階で、彼は早くも「この論題は、基本的に否定側が有利なはずである」と喝破していました。と、いうのは、彼いわく、法律上のさまざまな制度には、長年に渡り積み重ねられてきた経験的・法学的な必然性があるはずであるから、否定側は、そのような、現状を支えている論理を把握してしまいさえすれば、どんな肯定側の議論に対しても十分に戦える、というのです。私は、「そんなもんかいな〜」、と漠然と思っていましたが、現実には、決勝の試合もそのような展開になり、彼の活躍で、否定側が勝ちました。

【これがディベート上達の秘訣だ!!】

と、いうものがあつたら、誰でも知りたいですよね。私もそれを知りたいのですが、さて実は、武井君のディベーターとしての素晴らしさについてここまで書いてきて、はて、同君が、どのようにして上のような能力を身につけたのか、については、まだ何も分かっていないことに気が付きました。まだ本人に聞いてもいませんが、聞いてもおそらく彼は笑って答えないでしょう。しかし、いずれ聞き出せたらご報告しますので、しばらくお待ちくださいまし。では.....。(´)

## 初めてのディベート大会

### —勝利はエルメスのスカーフと共に?!—

JBDF会員 渡辺 起里

ぎりぎりにならないとできないという私の性格は学生時代から変わってないみたいだ。前日、パートナーの川俣さんと最後の打ち合わせを終えたのは、午後10時半過ぎ。それから家に戻って、もう一度論点と証拠資料の整理をしなければいけなかった。一度に肯定側と否定側の両方の準

備をするのは初めてだ。頭が混乱してきた。時計を見ると午前1時をまわっている。そういえば、一週間以上も前から、どのように構成をもっていけばわからず、どうしようと考えていたのだ。今更、数時間で何ができるのだろうか。困った時の夫頼み。で、助けを求めようとしたら、彼は疲れて熟睡している。だめだ。でもコンピュータの立ち上げだけはしてくれていたみたいだ。逃げ場はない。とにかくやるしかないみたいだ。コンピュータとワープロの両刀使いで肯定側、否定側の自分のパートの原稿を書いた。終えたのは午前5時。とりあえず書いただけで、こんなもので良いかどうかもわからない。疲れもあいまって弱気になってきた。幕張にも行きたくない。「どうしよう、どうしよう。」と眠っている夫を揺り起こした。「どうしたの。」私は、彼に原稿のチェックを頼んだ。そして少しの間、眠った。

言われたとおり有楽町線新木場駅でJR京葉線に乗り継ぎ、満員電車で揺られて海浜幕張駅に到着した。何かイベントがあるらしい。車内の大勢の若者達は親だ外語大学に向かうディベーターではなかった。(後から聞けば、幕張メッセではこの日、「東京ゲームショー」が行われていた。) イベントに興味を引かれながらも、ディベート、ディベ

ートと会場に向かった。パートナーに迷惑がかかってしまうという気持ちと夫の一言が私を会場に向かわせたのだ。

「終わったらスカーフ買ってあげるから。」結果は、2戦2敗。こんなものかと思いつつ、それでも半年前と比べればディベートの「ディ」くらいはできたのではないかとほっとした。最後に頂いたバロットもうれしかった。しかし、Aグループの決勝戦を見たときは、さっきまで私がやっていたのは何だったのだろうと思ってしまった。優勝の加藤・武井ペアは言うまでもないが、準優勝のペアもすばらしかった。隣に座っている夫に「準優勝の方もうまかったね。」と言ったら、「2-3年ディベートをすればあれくらいできるよ。」と返されてしまった。

このような大会は、私にとってとても貴重な経験だったが、同時にディベートをする人はどうしてこんなによくしゃべるのかということも再確認できたような気もした。私が今もディベートを続けているのは、私にもよくしゃべる「素質」があるからなのか。いや、きっと「もの」に弱いだけなのだろう。これも昔から変わってないみたいだ。

**道伸(夫から一言)**、スカーフなんぞどれでも同じようなものを、何故「エルメス」なんだろう。私には、いま一つよくわからないのですが、

加藤さんのおかげでJ B D Fはグランドスラムの一つJ D A大会を制覇することができました(パチパチパチ)。でも、ひょっとしてこれはJ B D FじゃなくてJ I C Aディベ研の成果?... まあ硬いことはいいっこなしさ(^\_^;)。川俣さんや渡辺さんを見習って、みなさん大会にじゃんじゃん出場しましょうね。そんでもってみんなで切磋琢磨してうまくなっていきましょう。



### 定例会報告



★1月度 1月23日(金)

論 題: 日本は出生率を上げるための政策をおこなうべきである。

肯定側: 加藤宏 さん 否定側: 小林さん 佐藤さん  
肯定側に加わるはずだった田北さんが仕事上の都合、欠席。したがって肯定側 加藤宏さんは一人で奮闘、また佐藤さんはデビュー戦でした。結果 9-0で肯定側の勝ち

○第一肯定側立論

現状分析 女性一人当たり2.08人生めば人口は減らない。日本は1.42人

問題点1 2050年には250万人減少

問題点2 2050年には1/3が65歳以上

悪い点1 4.4人で高齢者扶養を50年後は1.7人で扶養

2 労働力不足 3 経済状態悪化

プラン ・育児休業手当て導入 ・児童手当導入

・年金制度見直し

メリット1 人口減少を食い止める

2 子供を持てる環境を整える

(時間切れでプランの説明が尻切れになってしまいましたが、反対尋問で少々明らかに...でも現行のエンジェルプランとどこが違うのか、もうちょっと具体性が欲しかったというコメントが聞かれました。)

○否定側第一立論(佐藤さん)ディメリットとして

1. 環境悪化が解消する(通勤地獄、受験戦争、住宅難の緩和、CO2削減推進)

2. プランは財政を破綻させる

3. プランは人権侵害(問題)である。

と応戦。(いきなり前置きがなくDAに入ったためもうちょっと説明がほしかったというコメントが聞かれました。)

全体のコメントとして、肯定側のプランの優位性の証明がなかったこと、現在実行されているエンジェルプランとの差がはっきりあるという印象を与えることができなかったこと、否定側も人口が減少していくことがいいことだ、あるいは政府は出生率に関する政策を行うべきでないというスタンスがはっきり出ていなかった、したがって肯定、否定の立場の違いがはっきりわからなかったという声が聞かれました。



★2月度 2月20日(金)

論題: Japan should adopt policies to encourage people to have more babies.

肯定側: 加藤亨さん、塩島さん、否定側: 川俣さん、渡辺起里さん 結果: 5対5の引き分け。(引き分けはJ B D F史上はじめて?)

肯定側は、現状のエンジェルプランよりも出生率向上に効果のあるプランを提出する、という立場でした。(子育ての経済的サポートや、男性の育児参加ができる様にするといったもの) それに対して、否定側は日本の人口減少は、より快適な生活の実現、過度の競争社会の緩和、女性の社会での重要性の向上とのメリットをもたらすという意味で好ましいものであり、肯定側のプランはとるべきではないという立場でした。そもそも出生率を上げる為の政策必要なのか、という問題の重大性のところの議論をもう少しして欲しかったなという感じはしましたが、大変興味深いディベートでした。塩島さんはデビュー戦でした。是非今後ともアクティブメンバーとしてやっていただきたいと思えます。

では、また次号をお楽しみに.....



発行: 日本社会人ディベート連盟